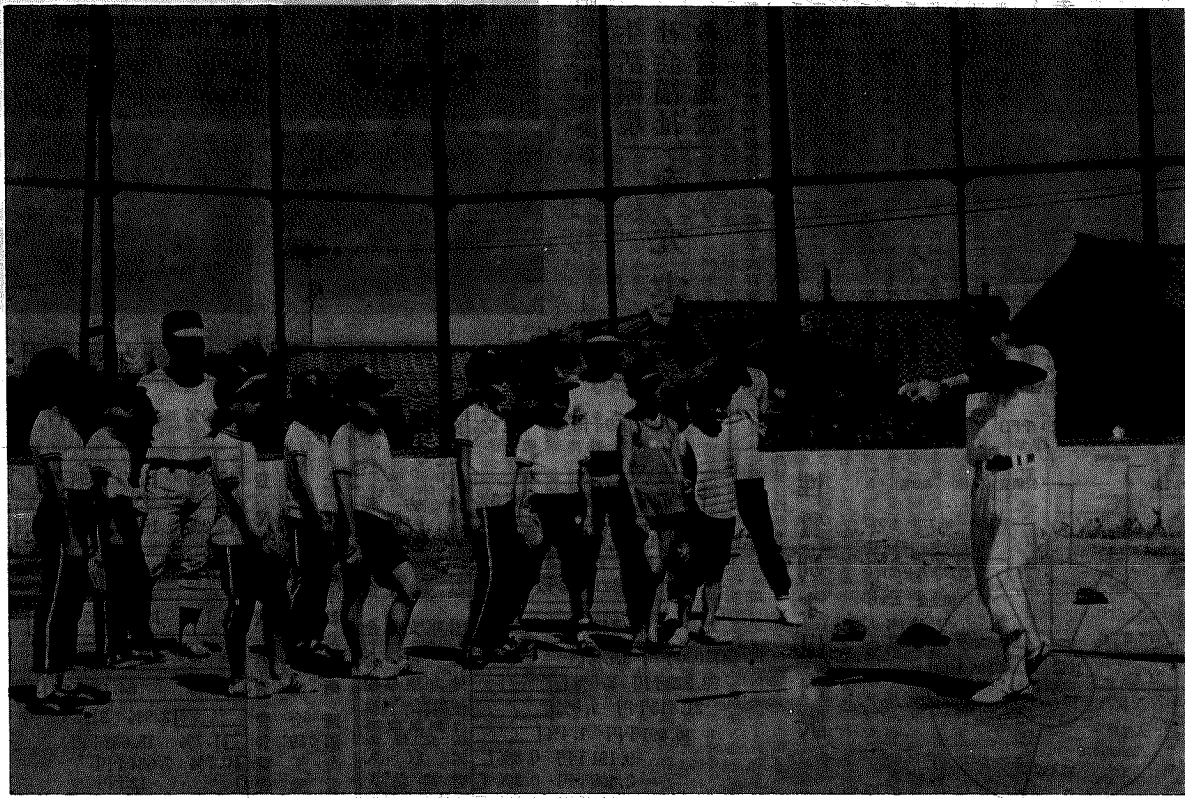


### おもな内容

1. 村の家計簿(2P)
2. 各地域で盆踊大会開かる(3P)
3. 横中バスケット男子県大会で優勝(3P)
4. 愛松園完成(3P)
5. 8月15日に成人式(4P)
6. 地域基金編が完成(4P)
7. 県下俳句大会 横越公民館で開く(4P)



躍動シリーズ⑧ 野球 (スポーツ少年団)

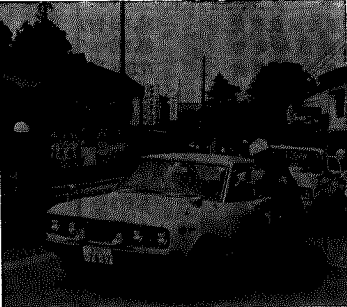
## あなたの命は安全ですか

秋の交通安全運動 9/21~9/30

### シートベルトで死者の62%は救える

昭和五十二年の着用していたために事故を起した人は、この数字をみて、シートベルトを装着していても死亡者八千九百四十五人もおぼろげに、事故が他の自動車や軽自動車など衝突したりますと、その瞬間に大きな衝撃をうけて車はこれおれ七人の、乗員はその時の衝撃で多くに逃げがすことは少なく、この直後に身体がハンドルや窓ガラスなどに二次衝突する際に衝撃をうけるものです。

このシートベルトを装着していても死亡者八千九百四十五人もおぼろげに、事故が他の自動車や軽自動車など衝突したりますと、その瞬間に大きな衝撃をうけて車はこれおれ七人の、乗員はその時の衝撃で多くに逃げがすことは少なく、この直後に身体がハンドルや窓ガラスなどに二次衝突する際に衝撃をうけるものです。



シートベルトを  
してありますか?

によって防止できたとしたら、昨年の自動車事故中に死亡した三十三百七十二人のうち約六十二パーセント、二人以上の上の尊い生命を救うことができたはずだといわれます。

この面からも、今後シートベルトの着用運動を強力に推進していかねばならないことを痛感されます。

### 低い着用率 15% 高速で 10%

自動車にシートベルトを付けておくことを、法律で義務づけてから十年にもなりましたが、初期は乗用車の運転者だけだったのが、次第に適用が拡大され、今ではほとんどすべての自動車の大部分の座席にシートベルトが取り付けられています。

それでも腰だけの「二点式」から始まる高い肩をも含めた「三点式」に改善されたにもかかわらず、今このところ、自動車の運転者または同乗者に対して、シートベルト着用を義務づける法律はありませぬ。むしろ、高速道路を運転するときに、シートベルトを着用するようつとめなければならないといわれています。

シートベルト着用推進運動は、総理府、警察庁において、広報活動と普及啓蒙を重点にこころみ、運転者、同乗者の理解を求め、また毎年、重点項目としているものの、昭和五十二年の調査では、シートベルトの着用率が、高速道路で十五パーセント、一般道路で七、八十パーセントと、まだまだ、シートベルトの安全性が理解されていないといわざるを得ません。



九月の夜を聞くときが、秋の夜は、秋らしい夜であるが、日中は時として夏とかわりがないほどである。

御承知の様に九月十五日は敬老の日である。いまさら、敬老の日について説明するまでもないが、よく人間と云うものは、物事に慣れ過ぎるとその意義を忘れてしまふのが常である。この日は日本国民の祝日の一つで、昭和十一年に制定された。

老人と云うと、年寄った人明日を知らぬ人、と云うイメージをもちがちである。浮世草子の好む老翁も、老人人なれば潔癖つきなど、能動的な面が多いが、現在の文化的な社会生活の急激な変化に慣れた人々に対して、その様な期待を起さず、許されぬ不幸であると思ふ。今日の社会福祉も、この様な高齢者の人々が安心して生活を送れる様に充実して行かなくてはならない。

明治、大正、昭和、百年の年輪の間に、対して國民のすべてが敬老の精神を養ひ、育てるべきであり、又、その反面、高齢者の力も、その体制にのびのびと、我身をまかせただけでならない。身体は衰えは仕方がないとしても、社会に於ける高齢者の生き方をと云うのを考えていく必要があるのではないだろうか。「老いて益々」と云う精神が必要である。今日と云う日を大切に、親類や家庭の人々の親類を助けることなど、又一つのことに、また、社会にも、更に期待される人であるのだと、努力する姿が敬老の精神を目標めさせるのではないだろうか。年々平均寿命が延びてきたと云う事は、喜ばしい事である。最近、高齢者の数、七十七、八十は花盛り、九十になつてお迎えが来た、百まで待てと云う「百まで」を待てる。御承知の様に、高齢者福祉委員の御報告を致します。